

足 利 市
まち・ひと・しごと創生
総 合 戦 略
(第2期)

令和4(2022)年度 ▶▶▶ 令和7(2025)年度

(兼 第8次足利市総合計画前期基本計画重点プログラム)

令和4(2022)年2月

足 利 市

【目 次】

第1章 はじめに

1 策定の背景・目的	3
2 計画期間	3
3 総合戦略の位置付け	4

第2章 総合戦略の方向性

1 国の第2期総合戦略	5
2 戦略の展開の方向性	6
3 SDGsの推進	9
4 戦略の推進体制	10

第3章 基本目標達成に向けた具体的施策

基本目標1 結婚・出産・子育ての希望をかなえ、 次代を担う子どもたちを育む	12
基本目標2 産業力を向上させ、安定した働く場を創出する	14
基本目標3 まちの魅力を高め、新しい人の流れをつくる	16
基本目標4 安全で安心な、幸せを実感できる暮らしをつくる	18

第1章 はじめに

1 策定の背景・目的

国においては、加速する人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある社会を維持することを目的に、平成26(2014)年9月に「まち・ひと・しごと創生法」が制定されました。

同法の趣旨に則り、本市でも、平成28(2016)年1月に足利市人口ビジョンと足利市まち・ひと・しごと総合戦略(以下「総合戦略」という。)を策定し、人口減少対策に取り組んできました。

本市の令和2(2020)年国勢調査における総人口は144,746人で、平成2(1990)年の167,686人をピークに減少傾向が続いています。第1期総合戦略の策定以降も、出生数の減少と死亡者数の増加による自然動態は悪化しており、国立社会保障・人口問題研究所の試算では、令和42(2060)年には約81,000人まで減少すると推計されています。

このように人口の減少傾向が顕著になり少子高齢化が進むと、都市としての活力が著しく低下していくことが懸念されています。現在の人口構造や出生率の状況をみれば、将来における人口減少は避けられない状況ですが、本市の活力を維持していくため、今後の急激な人口減少を可能な限り抑制し、また、地域経済の活性化や活力ある地域社会の形成を目指していく必要があります。

その課題の克服に向けた方向性を示すものとして、第1期総合戦略での検証を踏まえ、本市の最上位計画である第8次足利市総合計画との整合性を図りながら、この第2期総合戦略を策定します。

2 計画期間

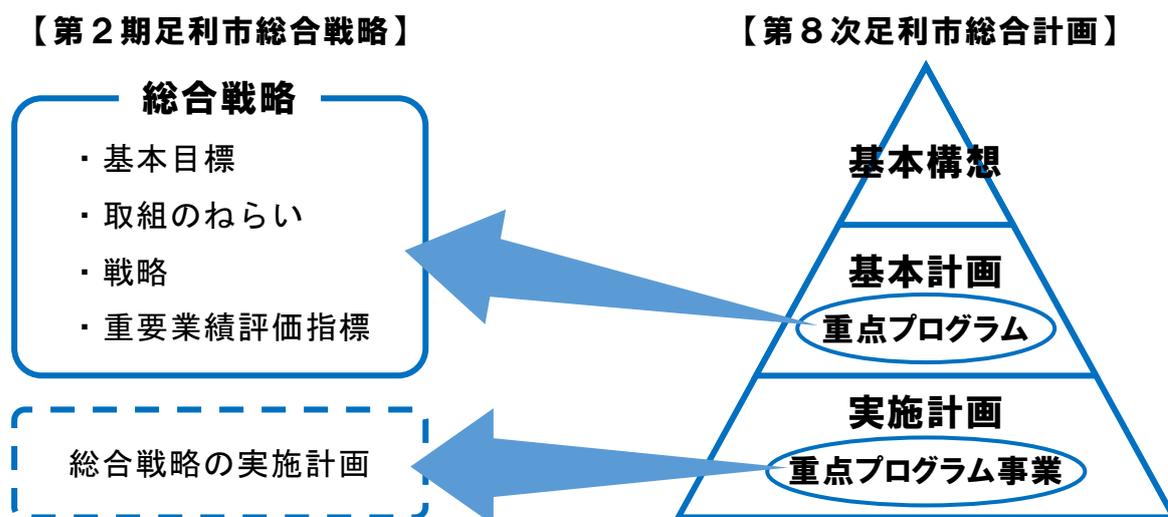
計画期間は令和4(2022)年度から令和7(2025)年度までの4年間とします。

3 総合戦略の位置づけ

第2期総合戦略は、第8次足利市総合計画の基本計画における「重点プログラム」として位置付け、両計画を一体的な計画として策定しています。

また、第8次足利市総合計画実施計画の一部を、第2期足利市総合戦略の実施計画として位置づけます。

■ 総合戦略と総合計画の関係図



第2章 総合戦略の方向性

1 国の第2期総合戦略

第2期足利市総合戦略では、本市が直面する人口減少や少子高齢化などの課題に対し、国が策定した第2期総合戦略を勘案しながら、第1期での検証を踏まえ、本市の魅力が十分に発揮されるまちづくりを推進します。

(参考)国の第2期総合戦略における基本的な考え方

■基本目標と横断的な目標

【基本目標1】稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする

- ・地域の特性に応じた、生産性が高く、稼ぐ地域の実現
- ・安心して働ける環境の実現

【基本目標2】地方へのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる

- ・地方への移住・定着の推進
- ・地方とのつながりの構築

【基本目標3】結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- ・結婚・出産・子育てしやすい環境の整備

【基本目標4】ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

- ・活力を生み、安心な生活を実現する環境の確保

【横断的な目標1】多様な人材の活躍を推進する

- ・多様なひとびとの活躍による地方創生の推進
- ・誰もが活躍する地域社会の推進

【横断的な目標2】新しい時代の流れを力にする

- ・地域におけるSociety5.0の推進
- ・地方創生SDGsの実現などの持続可能なまちづくり

■まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則

- 1 **自立性** 地方公共団体・民間事業者・個人等の自立につながるような施策に取り組む。
- 2 **将来性** 施策が一過性の対症療法にとどまらず、将来に向かって、構造的な問題に積極的に取り組む。
- 3 **地域性** 地域の強みや魅力を活かし、その地域の実態に合った施策を、自主的かつ主体的に取り組む。
- 4 **総合性** 施策の効果をより高めるため、多様な主体との連携や、他の地域、施策との連携を進めるなど、総合的な施策に取り組む。その上で、限られた財源や時間の中で最大限の成果を上げるため、直接的に支援する施策に取り組む。
- 5 **結果重視** 施策の結果を重視するため、明確なPDCAメカニズムの下に、客観的なデータに基づく現状分析や将来予測等により短期・中期の具体的な数値目標を設定した上で施策に取り組む。その後、政策効果を客観的な指標により評価し、必要な改善を行う。

2 戦略の展開の方向性

本市の人口減少は、若年層の市外流出と、それに伴う出生数の低下が大きな要因となっています。それらを最重要課題として捉え、第8次足利市総合計画に掲げる将来都市像の実現を目指し、次の4つの基本目標を定めて戦略を展開します。

また、戦略横断的に特に重視する4つのチャレンジの視点を設け、次代の潮流を的確に捉えながら、足利ならではの施策や事業を展開し、基本目標の達成を目指します。

(1) 将来都市像

**誇り高く ^{ひと}仁を育み 挑戦し続けるまち足利
～次代の子どもたちに、今の私たちがつなぐ未来～**

令和3(2021)年1月1日、足利市は市制施行100周年を迎えました。

足利市には、先人から脈々と受け継がれてきた歴史と文化、産業があり、美しい自然が残されています。

また、自ら進んで困難に立ち向かう「進取の精神」と、足利学校のあるまちとして、孔子の教えの中心である人を思いやり、いつくしむ「仁」の心を大切にしてきました。

私たちは、これらの長い歴史の中で育まれてきた「足利らしさ」を、新しい技術や考え方と掛け合わせ、新たな価値を生み出しながら、次代を担う子どもたちに引き継いでいく必要があります。

そのために、足利への郷土愛と誇りを高め、あらゆる主体が、このまちのために互いに思いやり、力を合わせ、助け合いながらまちづくりを進めることが重要です。

次の100年も希望に満ちた未来を描くため、常に挑戦し続けるまちを目指します。

(2) 基本目標

基本目標1：結婚・出産・子育ての希望をかなえ、次代を担う子どもたちを育む

基本目標2：産業力を向上させ、安定した働く場を創出する

基本目標3：まちの魅力を高め、新しい人の流れをつくる

基本目標4：安全で安心な、幸せを実感できる暮らしをつくる

(3) チャレンジの視点

あらゆる施策や事業を立案するにあたっては、以下の4つの視点を特に重視して、魅力と活力あふれるまちづくりを推進します。

(チャレンジ1) 若者の夢応援チャレンジ

本市では20歳代を中心とした市外転出が目立っています。まちの活力を維持するためには、若い世代の活躍が欠かせません。こうした若い世代の定住や、地方志向における移住の促進に向けて、若者が足利で夢に挑戦し、叶え、活躍できるよう、あらゆる分野で支援を行います。

(チャレンジ2) 足利の強みで魅力倍増チャレンジ

本市には豊かな自然と深い歴史があり、薫り高い文化が根付いています。そのほか人や食、製造品、観光施設など、誇るべきものがたくさんあります。本市のあらゆる強みを伸ばし、活かし、発信することで、まちの発展につなげます。

(チャレンジ3) デジタル技術で暮らし向上チャレンジ

デジタル技術の進展は、産業における担い手不足、交通弱者の増加、医療や教育などの地域間格差など、様々な社会課題の解決につながるものと期待されています。その動きは、新型コロナウイルス感染症の影響により、加速度を増しています。こうした技術の活用により、企業活動や市民生活、新たな日常への対応など、あらゆる分野での生産性、利便性を高めていきます。

(チャレンジ4) 世界とつながる国際化チャレンジ

世界経済の動向は、国境を越えて地球規模で展開されています。また、ICTの進展により、社会的、文化的交流もグローバル化が進んでいます。本市においても持続的な発展のため、経済交流や多文化共生など、あらゆる分野で海外を視野に入れていきます。

※4つのチャレンジの視点と特に関連が強い施策には下のマークを示しています。

若者
チャレンジ

強み
チャレンジ

デジタル
チャレンジ

国際化
チャレンジ

■ 第2期足利市総合戦略の体系図



3 SDGsの推進

SDGsは平成27(2015)年9月の国連サミットで採択された国際社会全体の開発目標で、令和12(2030)年を達成期限として、17の目標が設定されています。地球上の「誰一人取り残さない」ことを目的に、経済、社会、環境をめぐる広範な課題に対して、統合的に取り組む必要性が示されています。

国では、全閣僚を構成員とするSDGs推進本部を設置して、目標達成のための取組を進めており、地方自治体においても積極的な推進を要請しています。

本市がこれまで取り組んできたまちづくりは、SDGsの理念や目標と一致するものであり、引き続き、本戦略に則ったまちづくりを進めることで、SDGsの達成に寄与していきます。また、基本目標ごとにSDGsとの結びつきをアイコンで表記しています。

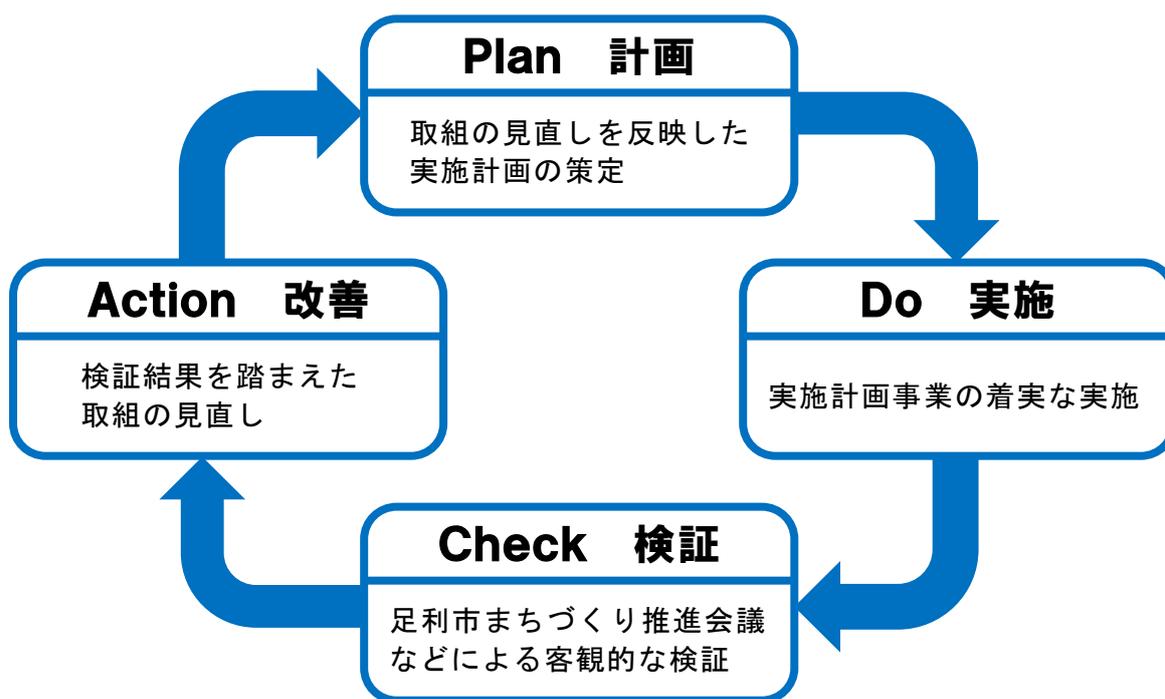


4 戦略の推進体制

本総合戦略の策定にあたっては、市民の代表者をはじめ、産業界、関係行政機関、教育機関、金融機関、労働団体、メディア、士業などのいわゆる「産官学金労言士」で構成される「足利市まちづくり推進会議」を設置し、幅広い知見からの意見を伺いながら、検討を行いました。

本総合戦略を着実に効果的に推進していくために、毎年度、関連事業の実施状況や数値目標及び重要業績評価指標(K P I)の推移を把握するとともに、「足利市まちづくり推進会議」などにおいて、効果検証を行います。

その検証を通じて、P D C Aサイクルを運用し、次年度の事業を改善するプロセスを実践します。



第3章 基本目標達成に向けた具体的施策

基本目標1：結婚・出産・子育ての希望をかなえ、
次代を担う子どもたちを育む

基本目標2：産業力を向上させ、
安定した働く場を創出する

基本目標3：まちの魅力を高め、
新しい人の流れをつくる

基本目標4：安全で安心な、
幸せを実感できる暮らしをつくる

基本目標 1

結婚・出産・子育ての希望をかなえ、 次代を担う子どもたちを育む

第8次足利市総合計画 —子どもの笑顔あふれる次世代育成プロジェクト—



■基本的方向

安心して結婚、出産、子育てができる環境をつくり、切れ目のない子育て支援を充実させるとともに、小・中学校での教育環境の充実、学力向上を図り、未来を担う子どもたちがのびのびと育つまちづくりを進めます。

■数値目標

指標名	参考値 令和元(2019)年度	基準値 令和2(2020)年度	目標値 令和7(2025)年度
合計特殊出生率	1.39	1.15	1.56
「課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいる」児童生徒の割合	76.8%	新型コロナウイルス感染症の影響により実施せず	79.8%

■取組1 結婚・出産へのサポート体制の充実

相談窓口である「とちぎ結婚支援センター足利」を充実させるなど、出会いの機会の提供に努めるとともに、妊娠を希望する方への支援や、安心して妊娠・出産・産後の育児ができるよう、支援体制を充実させます。

- 施策1-1 結婚へのサポート体制の充実 若者
チャレンジ
- 2 結婚を後押しする支援 若者
チャレンジ
- 3 産前・産後のサポート体制の充実

■取組2 子育てしやすい環境づくり

親子が健やかに暮らせるよう、健康の保持増進を図るとともに、子育てに関する相談体制や経済的支援、環境づくりを充実させ、子どもたちの健全な育成を支援します。

- 施策2-1 母子の健康の保持・増進
- 2 多様な子育て支援サービスの充実
- 3 放課後児童対策の推進 若者
チャレンジ

- 4 仕事やその他の活動との両立を可能にする環境の充実 若者
チャレンジ
- 5 都市公園の整備

■取組3 自ら学ぶ力や豊かな心を育む教育の充実

子どもたちの自ら学び、自ら考える力を育み、学力向上に努めるとともに、自然体験や読書活動の推進などにより、豊かな人間性や社会性を育みます。

施策3-1 学びの教育の充実

- 2 心の教育の充実
- 3 小中一貫した教育の推進
- 4 子どもの未来を切り拓く力を育む学習の推進
- 5 読書活動の推進

■重要業績評価指標（KPI）

指 標 名	参考値	基準値	目標値
	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和7(2025)年度
結婚支援センター登録者数	49人	88人	138人
放課後児童クラブ設置数	53箇所	53箇所	57箇所

基本目標
2

産業力を向上させ、安定した働く場を創出する

第8次足利市総合計画 —活力みなぎる産業力向上プロジェクト—



■基本的方向

産業力を向上させるため、産業団地の開発及び企業の誘致を進めるとともに、足利で夢を叶える創業支援や多様な働き方の促進、農林業の新たな担い手確保、先端技術の導入支援など、活力みなぎるまちをつくります。

■数値目標

指標名	参考値 令和元(2019)年度	基準値 令和2(2020)年度	目標値 令和7(2025)年度
製造品年間出荷額	—	令和元(2019)年 3,876億円	令和6(2024)年 3,926億円
認定新規就農者数	6人	4人	計画期間中累計 24人

■取組1 新たな産業団地の開発と企業誘致の推進

(仮称)あがた駅北産業団地の造成を進めるとともに、新たな産業系用地の開発に取り組みます。また、関係機関と連携し、民間未利用地を活用して市内外から企業の誘致を推進します。

施策1-1 産業系用地の開発

2 企業誘致の推進

■取組2 創業・就労・就農支援

創業希望者や就業・就農希望者に対する支援を進めます。また、キャリアアップや女性の活躍を支援し、足利で叶える夢を応援します。

施策2-1 創業支援体制の充実 若者
チャレンジ

2 就業希望者への就労支援 若者
チャレンジ

3 認定農業者や新規就農者などの確保・育成 若者
チャレンジ

4 歴史と文化を活かした魅力ある商業の創出 若者
チャレンジ

5 技術・技能習得の支援

6 働く場における男女平等の推進

■取組3 産業の成長支援

技術的支援や相談対応のほか、先端技術の導入を図るなど、生産性の向上や経営の安定化を推進します。

施策3-1 地場産業の技術力・生産性の向上

- 2 先端産業分野の導入 デジタル
チャレンジ
- 3 個店の体質強化
- 4 個店同士の新たな連携活動の支援
- 5 農業生産基盤の整備とICTなどによる効率化の推進 デジタル
チャレンジ
- 6 高品質な農産物の安定出荷と安全・安心の確保

■取組4 地場製品のブランド化、販路の拡大

工業製品や農産物などの地場製品に関する国内外の展示会への出店や情報発信などを支援するとともに、ブランド化を進め、販路の拡大を推進します。また、国内、海外との交流を進めます。

- 1 工業製品の発信力の強化 強
み
チャレンジ
- 2 農産物のブランド化 強
み
チャレンジ
- 3 国内・海外との経済交流の促進 国際化
チャレンジ

■重要業績評価指標（KPI）

指標名	参考値 令和元(2019)年度	基準値 令和2(2020)年度	目標値 令和7(2025)年度
海外取引などの 出展企業・団体数	12社	17社	計画期間中累計 60社
空き用地への年間立地件数	2件	2件	計画期間中累計 8件
遊休資産等活用促進事業を 利用した店舗立地	1件	5件	計画期間中累計 20件
主要園芸品目の 令和2年度からの単収増加率 (単収：10a当たりの収穫量)	109.5%	100.0%	110.0%

基本目標
3

まちの魅力を高め、新しい人の流れをつくる

第8次足利市総合計画 — 選ばれるまち魅力創出プロジェクト —



■ 基本的方向

歴史や文化など、本市の豊富な地域資源を磨き上げ、その魅力を国内外に広く発信するとともに、市民が郷土を誇りに思う気持ちを醸成し、訪れたい、住みたい、住み続けたいと思われるまちをつくります。

■ 数値目標

指標名	参考値 令和元(2019)年度	基準値 令和2(2020)年度	目標値 令和7(2025)年度
相談事業を経た年間移住者数	32人	41人	66人
年間観光客入込数	486万人	300万人	550万人

■ 取組1 効果的な情報発信とシビックプライドの醸成

本市の魅力を様々な媒体を活用し、効果的な情報発信を行うとともに、本市ゆかりの方々と連携し、ブランドイメージの向上に取り組みます。

- 施策1-1 効果的な情報発信とシビックプライドの醸成 強み
チャレンジ
- 2 足利ゆかりの人材との連携 強み
チャレンジ

■ 取組2 移住・定住の促進と関係人口の創出

若者の視点やアイデアを活かしたまちづくり活動を支援するなど、本市の地域活動に関わりたい人たちを積極的に受け入れて関係人口の増加を図ります。さらには移住希望者へのきめ細やかな対応や継続的なサポートで移住・定住の促進を図ります。

- 施策2-1 移住・定住の促進 若者
チャレンジ
- 2 関係人口の増加
- 3 若者のまちづくり活動への支援 若者
チャレンジ
- 4 住宅地の開発と分譲

5 優良な空家などの利活用の促進

■取組3 足利ならではの魅力創出による観光誘客

足利ならではの観光資源を磨き上げ、その魅力を国内外に発信するとともに、着地型観光やマイクロツーリズムなど、観光需要に合わせた事業を展開し、観光客の満足度向上につなげます。

施策3-1 足利ならではの観光資源の磨き上げ 強み チャレンジ

- 2 着地型観光の促進
- 3 マイクロツーリズムの促進
- 4 外国人旅行客の受入体制の整備と誘客促進 国際化
チャレンジ
- 5 広域観光の推進

■取組4 歴史と文化を活用したまちづくり

史跡足利学校をはじめとした豊富な文化財や、歴史薫る景観を活かしてまちの魅力を高めます。

施策4-1 足利学校の活用の推進 強み チャレンジ

- 2 日本遺産の魅力の発信
- 3 文化財への理解促進
- 4 足利の顔となる景観重点地区の都市景観づくり 強み
チャレンジ

■重要業績評価指標（KPI）

指標名	参考値 令和元(2019)年度	基準値 令和2(2020)年度	目標値 令和7(2025)年度
市公式SNS登録者数	16,352人	19,450人	62,900人
年間観光客宿泊数	32,000人	39,000人	48,000人
足利学校年間参観者数	142,492人	60,516人	180,000人

基本目標
4

安全で安心な、幸せを実感できる暮らしをつくる

第8次足利市総合計画 —安全な社会・安心な生活実現プロジェクト—
—未来につなぐ幸せ実感プロジェクト—



■基本的方向

新型コロナウイルスなどの感染症や大規模な地震、風水害、火災などの災害、さらには、交通事故、各種犯罪など、市民の安全安心な生活を脅かす様々な危険性から、市民の生命、財産を守り、誰もが安心して暮らせるまちをつくります。

また、持続可能な社会を未来につなぐため、環境問題に取り組むとともに、快適で便利な都市基盤の整備や、健全な都市経営を図り、子どもからお年寄りまで、誰もが生きがいを持って、いきいきと暮らし、幸せを実感できるまちをつくります。

■数値目標

指標名	参考値 令和元(2019)年度	基準値 令和2(2020)年度	目標値 令和7(2025)年度
地区防災計画策定 自主防災会数	—	—	20団体
人口1万人当たりの人身交通 事故件数県内市別順位	11位/14市	9位/14市	5位以内/14市
温室効果ガスの年間排出量	—	平成30(2018)年度 917千t-CO2	令和5(2023)年度 795千t-CO2
健康寿命	—	令和元(2019)年 男性:79.08歳 女性:82.88歳	令和6(2024)年 男性:79.83歳 女性:83.63歳

■取組1 感染症予防とまん延防止

新感染症等が発生した場合、関係機関などと連携し、検査や予防接種等を実施するとともに、感染まん延防止に向けた正確な情報発信、自発的な予防対策のための正しい知識の普及等を図ります。

施策1-1 感染症などのまん延防止対策の実施

- 2 感染拡大防止の啓発
- 3 感染症予防対策の実施

■取組 2 災害に強いまちづくり

災害から市民の生命と財産を守るため、消防団や自主防災会、事業者と連携し、地域防災力向上と危機管理体制強化を推進するほか、災害に強い都市基盤を整備します。

施策 2-1 地域防災力の向上

- 2 危機管理体制の強化
- 3 消防組織・体制の充実
- 4 中橋周辺の堤防かさ上げに伴う中橋の架け替えの推進
- 5 治水対策（河川の改修、適切な維持管理）
- 6 市内企業の事業継続に向けた計画策定支援

■取組 3 交通安全、防犯環境の整備

地域の安全・安心を確保するため、警察や防犯協会をはじめとする関係機関・団体と連携した交通安全対策や防犯対策を推進するとともに、空家対策や消費者教育を推進し、交通事故や犯罪を未然に防ぐ環境を整備します。

施策 3-1 警察や防犯協会などとの連携

- 2 生活道路・通学路の交通安全対策
- 3 犯罪の起こりにくい環境整備
- 4 適切に管理が行われていない危険な空家などの対応
- 5 悪質商法や特殊詐欺の被害防止のための消費者教育の充実

■取組 4 持続可能な社会の構築

再生可能エネルギーや省エネルギーを推進し、脱炭素社会の構築に取り組むとともに、本市の美しい自然や生物多様性の保全、循環型社会の形成を進め、持続可能な社会の構築を目指します。

施策 4-1 脱炭素社会の推進

- 2 自然環境と生物多様性の適切な保全
- 3 循環型社会の仕組みづくり
- 4 企業における脱炭素社会・持続可能な社会の推進

■取組 5 快適な都市基盤の整備

スマート・インターチェンジの設置による広域道路網の強化や生活路線バスの

利便性向上などによる公共交通網の充実を図ります。また、歩きたくなるまちなかの形成や河川緑地のオープン化などの居心地が良く、快適で潤いのある空間を創出します。

施策 5-1 スマート・インターチェンジ整備による広域道路交通の強化

- 2 生活路線バスなどの利便性向上
- 3 居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成 強み
チャレンジ
- 4 河川緑地の保全と活用
- 5 土地区画整理事業の推進
- 6 あしかがフラワーパーク駅周辺の開発

■取組 6 誰もが生きがいをもっていきいきと暮らせる支援

生涯を通じて心身ともに健康でいきいきと暮らせるよう、介護予防や健康づくりを推進します。また、ライフステージに応じた学習やスポーツの機会を提供するとともに、市民や地域の活動を支援し、誰もが生きがいを持って活躍できる社会を築きます。

施策 6-1 高齢者の生きがいづくり・健康づくりの推進

- 2 健康で暮らせるまちづくりの推進
- 3 ライフステージに応じた多様な学習機会の提供・支援
- 4 新市民会館の整備
- 5 総合型地域スポーツクラブの育成
- 6 市民の力・地域の力の支援

■取組 7 持続可能な行財政運営

安定的な歳入の確保に努め、財政基盤の強化を図るとともに、公共施設等の適正な配置や民間のノウハウを活用した施設の有効活用を図るなど、健全で安定した財政運営を図ります。また、先進的なデジタル技術を活用して、行政事務の効率化を推進します。

施策 7-1 財政基盤の強化

- 2 公共施設総量の適正化と適正配置の推進
- 3 公民連携による公有財産の有効活用の推進
- 4 行政事務の効率化の推進 デジタル
チャレンジ

■重要業績評価指標（KPI）

指標名	参考値 令和元(2019)年度	基準値 令和2(2020)年度	目標値 令和7(2025)年度
防災リーダー認定者数	1,961人	1,961人	2,160人
消防防災情報メール登録者数	12,509人	13,422人	18,000人
特定空家等累計解体件数	40件	77件	128件
1人1日当たりの燃やせる ごみ排出量	911g	914g	843g
生活路線バス利用者数	186,606人	122,424人	160,000人
廃止した公共施設及びその跡 地の有効活用・処分累計件数	1件	2件	12件
AI-OCR、RPAの累計 導入事業数	—	16件	26件